

高橋 多佳子(ピアノ) / 磯 絵里子(ヴァイオリン) / 新倉 瞳(チェロ)

椿三重奏団 コンサート

8/17(土)

13:30 開場

14:00 開演

和光大学ポプリホール鶴川

予定曲目

ブラームス：ハンガリー舞曲第6番

サン＝サーンス：白鳥

ショパン：小犬のワルツ

メンデルスゾーン：

ピアノ三重奏曲第1番二短調 他

世界的コンクールを制覇してきたソリスト達が織りなす、心震えるトリオの響き！

発売日 **6月6日(木)** 入場料 全席指定 **¥3,800** ※6才以上から入場可

チケット
取扱い

📍[インターネット] <https://www.m-shimin-hall.jp/tsurukawa/>

📞[電話] 町田市民ホール TEL 042-728-4300

📍[窓口] 町田市民ホール 1F 事務所

和光大学ポプリホール鶴川 1F 総合案内

※発売初日は 8:30~インターネット又は電話のみ(電話は座席指定不可)

(主催/お問合せ)(一財)町田市文化国際交流財団/和光大学ポプリホール鶴川



インターネット

X



〒195-0053 東京都町田市能ヶ谷 1-2-1 TEL042-737-0252
小田急線鶴川駅「北口」より徒歩3分

※来場者用の駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

椿三重奏団

Takako Takahashi / Eriko Iso / Hitomi Niikura

高橋 多佳子(ピアノ)、磯 絵里子(ヴァイオリン)、新倉 瞳(チェロ)

それぞれが日本を代表するソリストとして、室内楽奏者として活動を続ける3人の出会いは2008年。高橋と磯の出演するトリオの演奏会に急遽参加することとなった新倉は当時まだ大学生でしたが、意気投合し、その後も折に触れて共演を重ね、レパートリーを拡大し、音楽を成熟させてきました。2017年の幸田町民会館つばきホールでのコンサート後に、トリオ名を付けて常設のピアノ三重奏としての活動を決意。椿が日本原産の樹木であり、18世紀にヨーロッパに渡り「東洋のバラ」と呼ばれ人気を博したこと、白い椿には「完璧な美しさ」という意味があることを踏まえて、日本人としてのアイデンティティーと、西洋のクラシック音楽に携わる3人を重ね合わせ、2019年、あえて「カメラリア・トリオ」など欧文にしない「椿三重奏団」と命名されました。2020年2月に初のCD「メンデルスゾーン/ブラームス:ピアノ三重奏曲第1番」(アールアンフィニ・レーベル)をリリース。その歳月を重ねたがゆえの熟成した3人のアンサンブルはエモーショナルでダイナミック、そして精緻との評価を受け、レコード芸術誌特選盤に選出されました。2023年9月最新アルバム「偉大な芸術家の想い出に」(アールアンフィニ・レーベル)をリリース、そのロシアの息吹を表出するチャイコフスキーとショスタコーヴィチの濃密な演奏は、まさに椿三重奏団ならではの迫真の名演です。

■高橋多佳子 (ピアノ) Takako Takahashi, Piano

桐朋学園大学卒業、国立ワルシャワ・ショパン音楽院研究科修了。第12回ショパン国際ピアノ・コンクール第5位、第6回ポルト市国際音楽コンクール第2位、第3回ラジヴィウ国際ピアノ・コンクール第1位、第22回日本ショパン協会賞などを受賞。リサイタルやオーケストラ共演など活発な演奏活動を続ける。既に25タイトルのCDをリリースし、多くが「レコード芸術誌特選盤」となる。2019年12月に《ショパンピアノ協奏曲第1番他》(オクタヴィアレコード)、2020年2月に《椿三重奏団メンデルスゾーン&ブラームス》(アールアンフィニ)と続けてリリースされ大きな話題となった。2015年刊行の《ショパンの本》(音楽之友社)ではDVDでのピアノ演奏を担当した。宮谷理香とのピアノ・デュオ「デュオ・グレイス」、磯絵里子(Vn.)、新倉瞳(Vc.)との「椿三重奏団」としても活動。《生で聴く「のだめカンタービレ」の音楽会》中心メンバー。

ヨーロッパの著名な国際音楽祭への出演や、ポーランドの《青少年のためのショパン国際コンクール》、ロシアの《ラフマニノフ国際コンクール》に審査員として招聘されるなど国際的なキャリアも築いている。



■磯 絵里子 (ヴァイオリン) Eriko Iso, Violin

桐朋学園大学卒業後、文化庁芸術家在外派遣研修員としてブリュッセル王立音楽院に留学し、修士課程大賞を受賞し首席修了。マリア・カナルス国際コンクールほか国内外のコンクールで入賞。ソリストとしてオーケストラとの共演、全国各地でのリサイタルの他、宮崎国際音楽祭への参加、鎌倉芸術館ゾリスメンメンバー、「デュオ・プリマ」「EnsembleΦ(ファイ)」「デュオ・パッシオーネ」「椿三重奏団」など室内楽でも多彩な演奏活動を展開。(一財)地域創造公共ホール活性化支援事業登録アーティスト、並びにソニー音楽財団「こどものためのクラシック」登録アーティストとしてアウトリーチ活動にも積極的に参加している。2010年よりFMヨコハマ「磯絵里子のSEASIDE CLASSIC」のパーソナリティを務める。

デビュー以来12枚のCDをリリース。真摯な演奏への取り組み、確かな技量に基づいたヨーロッパ仕込みの洗練された感性には定評があり「気負いのないしなやかな活動ぶりが、クラシック音楽シーンで着実に存在感を放っている」など各媒体で高く評されている。 <https://erikoiso.jp/>



■新倉 瞳 (チェロ) Hitomi Niikura, Cello

桐朋学園大学音楽学部を首席で卒業、皇居桃華楽堂新人演奏会に出演し御前演奏を行う。その後スイスへ渡り、バーゼル音楽院ソリストコース・教職課程の両修士課程を最高点で修了。これまでに毛利伯郎、堤剛、Thomas Demenga、Martin Zaller(バロック・チェロ)の各氏に師事。国内外での受賞歴も多数、近年では第18回ホテルオークラ音楽賞、第19回(2020年度)齋藤秀雄メモリアル基金賞 チェロ部門受賞。桐朋学園大学在学中にはEMI Music JapanよりCDデビューを果たし、これまでにEMI Music Japanから3枚のアルバム、アールンフィニ・レーベルより、最新CD『11月の夜想曲』～新倉瞳委嘱作品集(世界初演初録音)を含む5枚のアルバムが発売されている。現在はCamerata Zürichのソロ首席チェリストとしてスイスを拠点に活躍する中、ソリスト、室内楽奏者として全国各地でリサイタル、オーケストラとの共演を重ね、司会、番組ナレーション、音楽劇、演奏家のためのドレスM Maglie le cassettoのプロデュース等、活動の幅を広げ音楽の素晴らしさを広く深く伝えようとする姿勢は多くの共感を集めている。使用楽器は、宗次コレクションより貸与されたMatteo Goffriller(1710年製)。 <https://www.hitominiikura.com>

